

vol. 6

Vita-min

the Station for Vitalizing Your Challenging Mind

高知で活躍する女性研究者 ロールモデル集

高知大学 男女共同参画推進室
男女共同参画支援ステーション





高知大学 理事
(ワークライフバランス担当)

宮井 千恵

高知大学は、「男女共同参画の基本理念・基本方針（平成24年2月制定）」に基づき、男女共同参画を大学で実践し、教育につなげ、そして社会に広げるといった基本的な考えのもと、男女双方にとって、働きやすく学びやすい場、個性と能力をよりいっそう発揮できる場を形成することに努めております。

四国5大学及び公設研究機関等が申請した平成30年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、『四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト』が立ち上がり令和5年度は6年目の最終年度になります。本プロジェクトにおいては、右記のように、3つの「目標・行動計画」を掲げて各機関が連携しながら取り組んでまいりました。

本学では、研究と生活の両立やワークライフバランスのとれた研究環境の実現のため、研究・職場環境の整備、女性研究者の研究力向上、裾野拡大、地域との連携・協働などさまざまな取り組みを進めてきました。この6年間の成果の一例として、女性研究者の増加についてみれば、全研究者に占める女性研究者比率は平成30年5月1日時点19.4%から令和5年5月1日時点では22.1%と2.7%増加、上位職への登用では、教授比率（特任職員含む）はそれぞれ7.5%から11.6%と4.1%と増加するなど少しずつ上がってきています。

本ロールモデル集は、裾野拡大の一環として、県内の多様な分野で活躍されている女性研究者の方々を紹介してきましたが、平成30年度から令和4年度までに35名の女性研究者をご紹介することができました。本ロールモデル集が、次世代を担う学生や若手研究者の目標となり、また、地域の研究者との連携・協働の機会が広がり、地域を牽引する女性研究者が増えていくことを願っています。

＼ 四国発信！ ／

ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト

四国地域の問題・課題解決につながる研究から、世界の人々への貢献に発展する研究を目指し、四国地域の産官学9機関が連携して、女性研究者や若手研究者の挑戦の場を広げるとともに、女性研究者の裾野拡大や若手研究者の育成、研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮し、女性研究者のマンパワーを質的量的に増加させ、男性を巻き込んだ総合的なキャリアマネジメントに向けて、「四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト」を展開する。

目標・行動計画

■3つの目標

- 目 標 1：研究力の向上を図り、優れた研究成果の創出につなげ、女性研究者の活躍の場を広げる。
- 目 標 2：女性研究者の増加及び上位職への登用を推進する。
- 目 標 3：研究と生活の調和を図る。

■行動計画

- プロジェクト1：女性研究者が牽引する地域創成イノベーションリサーチシーズの形成
- プロジェクト2：ハイ・ポテンシャル人材育成
- プロジェクト3：研究と生活の調和

－ 目 次 －

西森 美貴(高知大学医学部 放射線診断・IVR学講座(執筆当時))	3
神原 咲子(神戸市看護大学(執筆当時))	5
小川 志帆(高知工科大学 環境理工学群(執筆当時))	7
ケルビー 咲野(日高村地域おこし協力隊)	9
新名阿津子(人文社会科学部人文科学コース歴史・地理学プログラム)	11
柴田 里彩(高知大学 教育研究部 人文社会科学系 教育学部門)	13

西森 美貴

Nishimori Miki

◇高知大学医学部 放射線診断・IVR学講座 特任助教(執筆当時)

略歴

島根大学医学部医学科卒業。高知大学大学院総合人間自然科学研究科博士課程修了。高知大学医学部 放射線診断・IVR学講座特任助教

興味があることを大切にする

Q1.現在の仕事や研究活動に携わることになった経緯を教えてください。

研究活動というものに全く関わったことがなく未知の世界でしたが、放射線科(現・放射線診断科)に入局し、研究に携わっている周りの先生たちを見て、研究というものはどうものだろう、どういふふうに進めていくのだろうと関心を持ちました。入局2年目で大学院に進み、研究活動に携わり始めました。

Q2.仕事・研究の魅力について教えてください。

臨床を行う中で自分が疑問に思った点について仮説を立て、自分なりの答えまで到達できることです。先行論文を読み、データを収集し、そこから得たものをプレゼンや論文にまとめる作業は地味で、うまくいかない時は苦しいこともありますが、調べながら形になっている最中で新たに気づくこともあり、そういうときに面白さを感じます。

Q3.現在の仕事や研究活動および生活について

現在は高知大学放射線診断科で診療や研究に携わっています。二人の子供を育てながらなので、なかなか時間が自由に使いませんが、夫にフォローしてもらいながら、忙しい時は近くに住む祖父母に子供を預かってもらっています。また、科に子育て中の先生が多いため、週に一度研究日を設定できたり、希望によって時短制度を活用できるので、比較的に子育てと仕事の両立に融通がきく環境だと思っています。

Q4.仕事や研究の中心テーマについて中高生にも分かるような言葉で教えてください

癌細胞は正常細胞より多くブドウ糖を消費します。この性質を利用して、放射性物質を標識したブドウ糖(FDG)を体内に投与し、FDGの集積部位を画像化することで、がん細胞を見つけるのがFDG-PET/CT検査です。現在、より良い治療計画に寄与できることを目標に、このFDG-PET/CT検査の集積程度と、肺癌の遺伝子状態や病理学的特性との関係を調べています。

Q5.日常生活で大切にしている時間はどんな時ですか

休日に家族で遠出をしたり、子供と遊んだりなど。子育てができる限られた時間を大切にしたいと思っています。



キャリアについて考えている学生にメッセージ

医師になってすぐの頃は、自分が研究に携わるなんて全く考えていませんでした。しかし、始めてみると、研究の世界は考えていたよりずっと身近で、興味深いものでした。これから皆さんの前には、様々な選択肢が広がっていると思います。もしチャンスがあれば、一度研究活動に関わってみるのもいいかもしれません。

西森 美貴さんのとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	
	起床 朝食など		出勤 研究	読影			昼食	読影 (週に一度、午後を研究日にしています)				カフェ ラテ	研究		帰宅 夕食など	子供と 就寝								

神原 咲子

Kanbara Sakiko

- ◇神戸市看護大学 教授
- ◇高知県立大学 看護学部 特任教授
- ◇高知大学 医学系研究科 客員教授 (執筆当時)

略歴

神戸大学卒業、岡山大学大学院医歯学総合研究科修了、兵庫県立大学などを経て、2012年より高知県立大学准教授、教授、2021年より特任教授。

絶えず現場に足を運び耳を傾けるということ

Q1.現在の仕事や研究活動に携わるようになった経緯を教えてください。

進学先の神戸で、阪神・淡路大地震の被災現場の復興していく姿を目の当たりにしながら学生生活を送りました。博士課程では公衆衛生、疫学を専攻し、経済成長するアジアの生活習慣病を研究していました。その後、災害看護研究を主軸とした研究職に就き、グローバルヘルス、防災と付随する健康(情報)格差や公衆衛生課題に取り組むようになりました。

Q2.仕事・研究の魅力について教えてください。

社会の抱える課題や人々の苦悩に直面する分野ですがそこで感じる課題を、自身の知的好奇心から知識と行動力仕事として取り組むことができ、フィールドに直接出向き研究することで、共に考え解決に向けた貢献ができることです。

Q3.現在の仕事や研究活動および生活について

高知に単身赴任してから、1女1男のこどもを産み育てました。産休を取ら

ずに、両親、大学や地域の人と共に研究活動を続けることができました。一旦手を止めずに、自然と生活の中に、研究、出産、育児、他者や社会との関わりを調整しながら、公私ものの役割を楽しんでこなしたかなと思います。その延長で、災害支援をとまなう海外出張にもなども行きました。ただ自分だけのことではないので、家族や仲間、特にこどもがどうしたいかには気を配っています。看護は女性が多い職場なのとケアの専門職なのですぐ助け合っています。なかでも県大が女子大であった長い歴史からの女性が研究し続ける働き方生き方への理解には感謝しかありません。

Q4.仕事や研究の中心テーマについて中高生にも分かるような言葉で教えてください

これから、人々は生きる間に自然災害だけでなくいろんな危険と共存しなければなりません。それを一人ひとりが新しいテクノロジーを正しく使って身を守り、より良い暮らしを送れる。そのために弱者も強者もないお互い様になれる社会ってどうということと考えながら、国内外の機関と学問領

域も超えた研究者、特に高知、東アジア諸国での実戦からヒントを得つつ、GISやXRを使って研究開発し続けています。

Q5.日常生活で大切にしている時間はどんな時ですか

こどもに向き合いあそぶ時間。2人のこどもは性格も食事の嗜好も全く違う中で、個々がしたいこと、食べたいものを大事にしています。朝起きた時や寝るタイミングの気分は生活全体の質に関わるなどと思って意識しています。一人での自転車やジョギング、スイミングなどはリフレッシュや次の行動につながる大事な時間です。



キャリアについて考えている学生にメッセージ

看護も防災も、地域と一緒に広く見れば、仕事も研究もたくさんあるし、さまざまです。災害は、いつ来るかわからず、被害の現場に立てば無力感しかないことしばしばです。でもピンチをチャンスに変え、社会を変えるきっかけになっていると思えば、本当にまだまだ足りない領域でやりがいもあり、いろんな人に踏み込んでもらいたいです。

神原 咲子さんのとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
		こどもを起して朝食	保育園へ送り、出勤	主に、パソコンに向かう仕事、締切のある仕事		学生対応やオンライン打ち合わせなど			授業会議				保育園迎え、帰宅			就寝							起床 分析執筆、校正など集中力の要る作業



小川 志帆

Ogawa Shiho

◇高知工科大学 環境理工学群
(執筆当時)

略 歴

武庫川女子大学 薬学部卒業。同副手、助手。姫路工業大学(現兵庫県立大学)大学院理学研究科 博士課程修了。
Dana-Farber Cancer Institute Research Associate。子育てのため専業主婦(8年間)。大阪大学 大学院理学研究科 特任研究員・助教等を経て高知工科大学 環境理工学群 助教。理学博士。

幼い頃に抱いた志を仕事に

Q1.現在の仕事や研究活動に携わるようになった経緯を教えてください。

まず、アンリ・デュナンという人をご存知でしょうか?赤十字の創設者で、第1回ノーベル平和賞を受賞した偉人です。私は、小学校の国語の教科書で知った彼の生き方に感銘を受け、将来は医療に関係する仕事がしたいと思いました。大学の専攻は薬学なので、友人の多くは薬剤師として病院で働いています。ただ、私は、実習や卒業研究を通じて感じた『研究(実験)がとにかく好き』という気持ちから、薬剤師としてではなく研究者として医療の分野に貢献したいと考えました。

Q2.仕事・研究の魅力について教えてください。

私にとって研究の魅力は、湧き出してくる生物学的な疑問に対して、証明や解析方法を考え、自らの手で実験し、論理的に答えを導いていくという過程すべてを楽しく感じられることです。そして、その過程の先にある、世界中の誰も知らないこと・疑問に思われ

ていることを明らかにして、世界に向けて誰よりも早く発信できることも大きな魅力だと思います。

Q3.現在の仕事や研究活動および生活について

子供と一緒に泣いたり笑ったりした子育てもようやく一段落し、研究を続けられることに幸せを感じています。ただ、出産後に8年間専業主婦をしていたこともあり、任期付きのポジションしか研究できる場を見つけることは難しいのが現状で、高知工科大学でも3年の任期があります。もっと勉強したいと思って親には内緒で大学院に進学した時、手作りのおやつを毎日作ってあげられるような子育てがしたいと思った時、単身赴任でも高知で研究をやりたいと思った時も、世間の常識と自分が本当にやりたいことを比べて、心がワクワクする方を選択してきました。年齢を経てきて、研究で次のポジションを得ることは難しくなってきましたが、10歳の頃の志を大切に、もう少しチャレンジしてみたいと思っています。

Q4.仕事や研究の中心テーマについて中高生にも分かるような言葉で教えてください

私たちの体は数十兆個の細胞からできています。そして、それぞれの細胞に全く同じ配列のDNAを配するために、細胞分裂の際、“DNA複製”と言うメカニズムが働いています。私は、親細胞のDNAを完全コピーするための“DNA複製”をテーマとして研究を行っています。“DNA複製”は、生命の根幹を成すメカニズムです。この機構の破綻は、癌や老化など生命を脅かす原因となることから、“DNA複製”の詳しい解析は、創薬や治療などに結びつくと考えています。

Q5.日常生活で大切にしている時間はどんな時ですか

一番は、生物に対しての時間(研究室での研究活動)です。もう一つは、趣味と実益を兼ねた料理をする時間です。高知では、新鮮で美味しい食材が安価で手に入ります。季節ごとにスーパーに並ぶ都会では手に入らないような食材を見つけては、調理法を考えるのも楽しい時間です。家には電子レンジを置いていません。時短ではなく、子育てに手を取られていた時には難しかった“丁寧に暮らすこと”を大切にしています。



キャリアについて考えている学生にメッセージ

女性が結婚や出産を経てもキャリアを継続させることは大切なことだと思います。ただ、人生は思ったように進むことは稀で、時にはキャリアが途切れてしまうこともあります。出産・育児は、女性にとって心身とも負担がかかり、人生の大きな転換期になります。育児をきちんとしてからキャリアを再開することも選択肢の一つだと思います。このような選択肢はまだまだ認められているとは言い難いのですが、女性の働き方のロールモデルの一例となれるように私も努力します。

小川 志帆さんのとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
		起床 お弁当作り 犬と散歩	朝食 洗濯・掃除	出勤 実験計画確認	実験				昼食 論文検索	実験		実験 論文執筆			帰宅 夕食 犬と散歩	英語学習		趣味 手芸					



ケルビー 咲野

◇日高村地域おこし協力隊

Sakino Kelbie

略歴

岡山大学経済学部経済学科卒業後、ワーキングホリデーで英国スコットランドに移住し、日本食レストラン店員や医療通訳者、日本語家庭教師などを経験。その後、エディンバラ大学日本学科常勤日本語講師として約10年間勤務。産休と特別休暇を利用して、2020年にエディンバラ大学大学院修士課程(言語教育)修了。2022年5月に家族で出身地である高知県日高村に移住。同年8月、日高村地域おこし協力隊に着任。現在は村内での日本語教育提供を目指して活動中。

「出会いに行く」を大切に

Q1.現在の仕事や研究活動に携わるようになった経緯を教えてください。

子供の頃から海外生活に慣れていたので、大学卒業後に海外移住する道を探していました。開発学の分野に興味があったので、英国の大学院留学を検討していましたが、スコットランド人の夫(当時は彼氏)の勧めでまずはワーホリで行ってみることに。渡英から約1か月後、東日本大震災が発生。急遽エディンバラ大学の留学生が引き上げてくることになり、その学生たちの特別授業にボランティアとしてお手伝いに行ったのが、日本語教育との出会いでした。

Q2.仕事・研究の魅力について教えてください。

初めて日本語の授業に参加した時に、日本語の文法を説明するスコットランド人の先生を見て、「そうだったんだ!もっと知りたい!」と思いました。あの高揚感は、今も授業の準備をしたり学習者からの質問を受けたりする中で湧き上がってきます。田舎に帰ってきて地域での日本語教育という分野に携わりたいと思ったのは、日本語について考えたり学んだりすることで、日本人である自分のルーツや背景、考え方を紐解くことができ、自分という

人間と周りとの人間関係をより深く理解できるからです。

Q3.現在の仕事や研究活動および生活について

村内の在留外国人の言語や生活面のサポート体制を整えるべく、私は今、村内で外国人就労者を雇用する企業2社と、どのような日本語教育提供が実現可能かを話し合っています。帰国直後は、既に教室を持つ他の地域に見習って同じように始めてみようと考えていましたが、関係者に話を聞くうちに、それぞれのニーズを満たせるような形を模索するのが一番だと思うようになりました。その模索から開設までの経緯を自分の研究活動としようと思っています。修士論文以外に論文を書いたことはなく、学校型と地域型の教育は大きく異なるため分からないことばかりですが、新しい環境での新しい挑戦に胸が膨らみます。論文にすることで、地域の日本語教育を必要とする関係者の声をより多くの人に届けたいです。

Q4.仕事や研究の中心テーマについて中高生にも分かるような言葉で教えてください

「電車でスマホを盗まれた」も「誰かが電車で(私の)スマホを盗んだ」も、

文法的には問題ありませんが、前者のほうが自然に聞こえませんか。「Do you know this person?」は、「この人をご存知ですか」「この人、知ってる?」「この人、知っちょう?(土佐弁)」と様々な言い方があり、私たちは無意識に使い分けています。そもそも、なぜ使い分けるのでしょうか。日本語学習の目的や環境、使用頻度などにもよりますが、語彙や文型だけでなく、その使い分けやニュアンスの違いを学習者に説明し、実際のコミュニケーションを円滑に行えるようにサポートするのが私の仕事です。

Q5.日常生活で大切にしている時間はどんな時ですか

私の家族は、夫、長女(4歳)、次女(0歳9か月)、愛犬(11歳)の4人+1匹家族なのですが、家族団らの時間に加えて、その一人一人との時間も大切にしています。次女の出産、引っ越し、新しい仕事や生活環境の整備などで、この1年はその時間が満足に取れず、私の心のバランスが不安定でした。2023年はそこを見直すとともに、自分一人でコーヒージョップに行ったり読書をしたりする時間も大切にしようと思っています。



キャリアについて考えている学生にメッセージ

将来どんな仕事をしたか分からない、特に興味のある分野がこれといってないという方は、声をかけてもらったこと、人に頼まれたことや他の人が手をあげない作業を、環境が許さざり引き受けてみてはどうでしょうか。私も最初から日本語教育に興味があったわけではなく、私なんかで役に立てるならと、そんな軽い気持ちであの教室に行ったのがきっかけです。まさか自分が日本語教師になるとは夢にも思っていませんでした。今はやりたいことが分からなくても、出会いのチャンスを逃さずにいれば、必ずと見つかると思います。

ケルビー 咲野さんのとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
	起床 保育園の準備	朝食 子どもの支度、犬の散歩	子どもを保育園に預け、出勤	二子スチック、メルチスック、TODOLIST確認		事業所さんと打ち合わせ	昼食	文献検索・情報収集・ノート取り		授業準備		子どものお迎え、帰宅	子供と遊ぶ	夕食入浴	子供寝かしつけ	家事、お茶もしくはお酒でまったりする	就寝		次女にミルクをあげる		長女の寝言に目が覚める		次女をあやす



新名 阿津子

◇人文社会科学部人文科学コース歴史・地理学プログラム

Niina Atsuko

略歴

筑波大学卒業、筑波大学大学院生命環境科学研究科を修了。博士(理学)
とっとり地域連携・総合研究センター研究員、公立鳥取環境大学環境学部准教授、伊豆半島ジオパーク推進協議会専任研究員、東北公益大学公益学部准教授を経て、2022年10月より高知大学人文社会科学部講師。

なんとかなる

Q1.現在の仕事や研究活動に携わるようになった経緯を教えてください。

きっかけは卒業論文の作成でした。卒業論文では高知の中心商店街を対象に、土地利用調査やアンケート調査を行いました。野外調査をして、データを分析し、それを論文とプレゼンにまとめるというこの経験がとても面白く、「これをもっと続けたい」と思いました。また当時は、「商業環境と消費者行動が都市においてどのように変化していくのかをもっと研究したい」とも考え大学院へと進学し、紆余曲折を得て、現在に至ります。

Q2.仕事・研究の魅力について教えてください。

国内外の様々な地域へフィールドワークに出かけ、見聞を広めていくところが野外科学としての地理の魅力の一つですし、さまざまな事象を地図化するのも面白いところだと思っています。また、地域のひととの対話や研究者との議論、論文の執筆を通じて、自分自身の認識や考え方がひっくり返るところに研究の魅力を感じます。「そういうことか!」と新たな見方や価値

観、認識を獲得していくプロセスによって、自分自身がアップデートされているように思うのです。

Q3.現在の仕事や研究活動および生活について

普段は大学にいますが、時にジオパークの現地審査員として、国内外のジオパークの審査や調査に出かけます。2023年に訪れた興義や恩施(中国)では、ペルム期の大量絶滅を生き延びた爬虫類たちの進化やカルスト地域における少数民族の暮らしを学びました。もちろん帰ってきたら、審査レポートの執筆です。責任感と緊張感を感じながら、学術論文を書くのとはまた違った感覚で取り組んでいます。このジオパークの審査や調査から得られた情報やインスピレーションが、自分自身の研究や活動にも役立っています。

Q4.仕事や研究の中心テーマについて中高生にも分かるような言葉で教えてください

ジオパークでは地質遺産、自然遺産、文化遺産の保全、調査・研究、教育、持続可能な開発を実践します。

その中で、私は地域のさまざまな変化を調べています。例えば、レスポス島(ギリシャ)では、ジオパークの拠点施設である博物館で地元の若者を対象とした職業訓練が行われ、化石のコンサベーター等の雇用を創出しました。隠岐(島根)では観光協会が統合され、ジオパークを中心としたDMO(観光まちづくり法人)が設立されました。フィールドに出るとその変化や影響を、より詳細に観察することができます。

Q5.日常生活で大切にしている時間はどんな時ですか

研究等でフィールドに出る分、ここ数年、インドアの編み物が日課です。主に輪針で靴下を編んでいます。無心にメリヤス編みをしている時は、瞑想状態にあるのではないかと思います。毎日小一時間ほど編むと、頭がスッキリします。また、編み物は編むだけでなく、毛糸の産地や歴史、流通、編み物文化などに触れることができるので、地理の勉強にもなります。ただ、高知の冬は比較的暖かいので、ニットの出番が少ないのが難点です。



キャリアについて考えている学生にメッセージ

私自身のキャリアを振り返ると、大学院(つくば)を出たあと、地域シンクタンクの研究員(鳥取)→大学教員(鳥取)→ジオパークの専門員(伊豆半島)→大学教員(酒田)を経て、今、高知大学に勤めています。このキャリアは当初思い描いていたものではないのですが、ジオパークをライフワークにしたら結果的にこうなりました。なので、自分自身の研究と選択を信じて、キャリアを開拓して行ってください。

新名 阿津子さんのとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
		起床・朝食		出勤メールの確認 タスク管理・授業の準備 打ち合わせなど	授業		出席管理・昼食など	授業準備など			授業		出席管理・授業準備・事務処理 タスク管理など			帰宅・家事	編み物など				就寝		



柴田 里彩

Shibata Risa

◇高知大学 教育研究部
人文社会科学系 教育学部門

略歴

九州大学教育学部卒業、九州大学大学院人間環境学府修士課程修了、九州大学大学院人間環境学府博士後期課程、日本学術振興会特別研究員(DC2)を経て、現職。

「問い」に向き合うことを仕事にする

Q1.現在の仕事や研究活動に携わるようになった経緯を教えてください。

大学での教育に携わるようになった経緯と、研究に携わるようになった経緯は、少し違うのですが、前者については、もともと、教員という職への関心は強くありました。大学では教育学部に進学したのですが、そこで、強く惹かれる講義に出会い、「この先生のもとで学びたい」と思ったことが、今思えば、この職を志した一番のきっかけだったと思います。

後者については、とても素朴な回答になりますが、「なぜだろう」と思うことがあり、それを問い続けたかったからです。

Q2.仕事・研究の魅力について教えてください。

自分が疑問に思ったことを、学術的な問いにし、調査・分析・考察を重ね、一定の結論を出す、これが研究のプロセスですが、納得の行く結論を導けた時はやっぱり嬉しいです。さらに、その過程で様々な人から意見を得たり、成果を発表する事でリアクションを頂ける、そうした「問い」を通じた交流がこの仕事の本質であり、魅力と思うところです。

Q3.現在の仕事や研究活動および生活について

現在は、高知大学での教育と研究を中心に日々を過ごしています。教育については、専門である教育制度、教

育行政学の講義を担当し、「ある教育制度が、なぜ作られ、どのように運用されているのか」という観点から話をしています。子どもの教育・学習環境、教員の労働環境、教育制度・行政はそれらを適切に整備する役割があり、その大切さを伝えられる授業を目指しています。また、卒業論文の指導では、ゼミ生それぞれが持っている問題意識を、論理的思考に基づいて学問的な問いへと深化させられるように丁寧に議論を重ね、また、「書く」という思考表現作業が卒業後にもつながる経験になるように、という想いで、指導しています。

研究については、空き時間に論文を読んだり、学内業務のない日程を見計らって調査にいったり、時には徹夜で論文を書いたり、多少苦しくても時間を確保するよう心がけています。

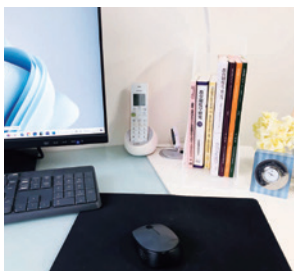
Q4.仕事や研究の中心テーマについて中高生にも分かるような言葉で教えてください

私の専門は教育行政学ですが、なかでも高校教育制度に関わる地方教育行政の態様に関心があります。そのなかで、現在は、大きく2つの研究に取り組んでいます。1つは、高校段階における男女共学・別学の状況について。もう1つは、高校と地域の協働、高校を核とした地域づくりについてです。高知県では特に後者が現実課題となっていますので、ここでは後者に言及させて頂くと、人口減少、及び少子化が進行する状況下で、地

域の存続・活性化を担う存在として高校をまなざす向き(政策・研究動向)があります。そのなかで、特定の高校が、なぜ、どのように地域と結びつけられていくのか、そこで起きうる葛藤や必要な対応、教育の在り方とはどのようなものか、という点に関心をもち、調査・研究を行っています。

Q5.日常生活で大切にしている時間はどんな時ですか

友人と話す時間は、私にとってとても貴重な時間です。自分がどんな人間で、どう歩んできたか、どんなことをなぜ考えているのか、気づかせてくれたり、ある時には、足踏みしていることの背中を押してくれるような、そんな友人の存在を本当にありがたいと思っています。また、応援してくれている地元家族と過ごす年末年始の時間など「節目」の時間も、とても大切にしています。



キャリアについて考えている学生にメッセージ

研究に携わる仕事を「目指している」という方は、問い続けたい疑問がすでに何かしらあるという方かと思っています。私はそれを研究として昇華するにあたって、いくつもの壁に突き当たったり、その壁の登り方がわからず悩んだ時間がたくさんありました。それでも、今できることを少しずつ積み重ねた先に、何らかの結果はあらわれる、と、私は実感として思いました。成果の裏には、とても地道な作業と長い熟考の時間が必要で、それ自体を諦めないことが結果に結びつくのではないかと思います。

柴田 里彩さんのとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
		起床 身支度	出勤	授業		会議 事務処理	昼食	論文を読む、 論文メモの作成		授業		卒論ゼミ		卒論指導	論文執筆			帰宅、 就寝準備	就寝				

高知大学男女共同参画推進室では、ダイバーシティ研究 ワークライフバランスのとれた研究環境の実現、男女共同

環境実現イニシアティブを活用して、研究と生活の両立、
参画の推進のため、次のような取り組みを行っています。

①ダイバーシティ研究・職場環境の整備

① 研究支援員制度の実施

研究支援員が研究補助を担うことで、ライフイベント中の研究者が計画的に研究の遂行と生活時間の確保ができるように支援する制度です。

② 力仕事サポーター制度

女性研究者が妊娠・出産・病気からの復帰（病気からの復帰は男性含む）で力仕事が必要な作業（実験器具の運搬等）を事前登録の力仕事サポーターが支援する制度です。

③ ライフイベントからの復職支援制度

過去2年以内に、ライフイベント（妊娠・出産・育児、介護）のため、休業または産前・産後休暇、もしくはその両方により、3か月以上やむを得ず研究活動を中断した方の研究を支援します。支援金額：10万円以内（令和5年度）

④ 介護パンフレット『介護に備えようかえ』

高知大学では介護準備のパンフレットを作成し、教職員に配付しています。

⑤ ライフイベント休憩室（SANKAくんのうち）

高知大学朝倉キャンパスの正門から左手にある構内1階に、ライフイベント中の教職員や学生が利用できる休憩室「SANKAくんのうち」があります。授乳、搾乳、おむつ交換、お子さんとの休憩、子育て交流会などに利用できます。利用時間は原則平日9時から16時30分までです。人事課（本部管理棟3階）で鍵を借りて、ご利用いただけます。

⑥ ダイバーシティ経営セミナー（マネジメントセミナー）の開催



⑦ 女性活躍推進セミナーの開催

⑧ 高知県ワークライフバランス推進企業認証（次世代育成部門・介護支援部門）の取得



②女性研究者の研究力向上

① ダイバーシティ推進共同研究支援制度

② 交流研究発表会（四国地域の大学、公設研究施設、企業等の研究交流会）

③ 国際学術論文投稿支援制度

④ 高知大学女性研究者奨励賞の募集

③裾野拡大

① ロールモデル講演会

② ロールモデル集の発行



④地域との連携・協働

① キャリア形成セミナー（こうち男女共同参画センター「ソレ」共催）

② デートDVセミナー（こうち男女共同参画センター「ソレ」共催）

③ ニュースレターの発行



これからも、地域と連携して男女共同参画の推進に取り組んでまいります。

高知大学における男女共同参画の基本理念・基本方針

平成24年2月8日制定

<基本理念>

男女共同参画社会基本法（平成11年6月制定）は、男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国社会を決定する最重要課題であると位置づけています。

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」を意味しています。

このように男女共同参画が社会全体として目指される転換期において、大学には、教育と職場環境における男女共同参画を阻害する偏見や差別、仕事と私生活との両立の困難など、社会が抱える多面的な課題の解決に向けて積極的に取り組むことが要請されています。学知の探求の拠点として、次世代育成の母体として、さらには地域社会の発展の基盤として、大学は、男女共同参画社会を実現するための先進的なモデルを提示すべき立場にあります。

高知大学は、「男女共同参画を大学で実践し、教育につなげ、そして社会にひろげる」という基本的な考えのもと、男女双方にとって、学びやすく働きやすい場、個性と能力をよりいっそう発揮できる場を形成することに努めます。そして、学問の府として、男女共同参画社会の形成に寄与する責務を果たします。そのため次の基本方針を掲げ、男女共同参画社会の実現に向け着実に歩みを進めます。

<基本方針>

1. 男女がともに生き活きと能力を発揮できる職場環境・教育環境を築く
2. 男女共同参画の教育を充実させ、男女共同参画社会の形成に寄与する人材を育成する
3. 男女共同参画社会の実現をめざし、大学での実践を社会に向け発信する

高知大学におけるSOGIの多様性に関する基本方針

令和4年1月27日策定

高知大学は、「地域から世界へ 世界から地域へ」を標語に、人権を尊重し、国籍、性別、年齢及び障害の有無等による差別や偏見のない大学として、地域社会・国際社会の発展に寄与すべく取り組んでいます。

この観点から、本学では、多様な性的指向や性自認=SOGI（Sexual Orientation and Gender Identity）への理解を深め、本学の学生・教職員等構成員のSOGIに関することがらに配慮するとともに、個人の意思・選択を尊重し、安全安心に修学・就労できる環境づくりを目指します。

<基本方針>

1. SOGIの多様性に関する理解を促進します。
2. SOGIを理由とする差別や偏見、ハラスメントを禁止します。
3. SOGIに関する個人情報の保護に努めます。
4. SOGIに関連する修学や就労上の合理的配慮を図ります。





Vita-min

the Station for Vitalizing Your Challenging Mind

高知大学女性研究者ロールモデル集

国立大学法人 高知大学 男女共同参画推進室
男女共同参画支援ステーション Vita-min

the Station for Vitalizing your challenging Mind

〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号 URL: <http://www.kochi-u.ac.jp/sankaku/>
TEL: 088-888-8022 FAX: 088-888-8023 E-Mail: sankaku@kochi-u.ac.jp